

腎機能に応じて持参薬の減量を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、持参薬の用量について、腎機能に応じて減量を提案することで、安全な薬物療法に貢献できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

- ▶原疾患の治療目的で入院された患者
入院時血液検査結果
血清クレアチニン値 1.50mg/dL、標準化 eGFR 36.2mL/min/1.73m²

【持参薬（一部抜粋）】

- メトホルミン塩酸塩錠 250mg 1 回 2 錠、1 日 2 回 朝夕食後



Dさん

持参薬確認時



Dさん

これが今飲んでおられるお薬です。
かかりつけの病院で、メトホルミンが 2 錠から 4 錠に増えたんです。

ありがとうございます。
入院中、薬を続けてよいか、先生に確認しておきますね。



薬剤師

血液検査結果確認後

Dさんのメトホルミンについて相談があります。
かかりつけ病院でメトホルミンが増量されてますが、腎機能が中等度に低下（※標準化 eGFR=36.2mL/min/1.73m²）しており、添付文書上の最大投与量が 750mg までとなります。
現在 1,000mg で服用されておりますが、減量についてはいかがでしょうか。

※Dさんは標準的な体格であり、個別化 eGFR=34.8mL/min



医師

腎機能が低下していますね。それでは、メトホルミンは 750mg に減量しましょう。かかりつけの病院には紹介状でお伝えしておきます。

ありがとうございます。Dさんにメトホルミンの減量について説明いたします。



その後、メトホルミンは 1 日 3 錠（750mg）に減量となった。
減量による血糖コントロールの悪化なく経過し、減量したまま退院となった。

持参薬の用量について、腎機能に応じて減量を提案することで安全な薬物療法に貢献できた。